

GIGAスクール構想で野田市がめざす子どもの姿

自己の**学び**をもとに、他者と**協働**して、よりよい**未来**を切り拓く

生涯にわたって学び続け、 社会の担い手として 課題解決できる「チカラ」を育む

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等

生きて働く
知識・技能
未知の状況にも対応できる
思考力・判断力
・表現力等

言語能力 情報活用能力 問題発見
・解決能力

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学び
の視点からの授業改善

これまでの授業実践
(野田教育の蓄積)

最先端の
ICT

◎デジタルかアナログかの二者択一ではなく、学習の目標によって選択したり、両者を組み合わせたりすることで、より効果的な学習活動を展開することを目指していきます。

学習内容の確実な定着
学習を広げ深める

異なる考え方を組み合わせ
よりよい学びを生み出す

個別学習【個別最適な学び】

■ 個に応じた学習
一人一人の取組や習熟の程度等に応じた学習をする。
・デジタル学習ドリルやアプリを使って、自分のペースで学習する。
・自分の発表や演奏等を記録して、よりよいものにするために練習する。

■ 調査活動
インターネットやアプリを用いた情報収集、観察における写真や動画による記録等の調査をする。
・必要となる情報をインターネットやアンケートアプリ等を使って収集する。
・写真や動画による記録をいかして、新たな発見につなげる。

■ 思考を深める学習
アプリやデジタル教材を用いたシミュレーション等により考えを深める学習をする。
・プログラミングの活動を通してプログラミングの思考をもつ。
・コンテンツを使って、仮想的に操作を試行する。

■ 表現・制作
写真や動画等を用いて、資料や作品をまとめる。
・目的に応じて資料や作品を制作したり、意見交換したりする。
・制作過程を記録して、振り返りをする。

協働学習【協働的な学び】

■ 発表や話し合い
ペア、グループや学級全体に、意見や考えを提示して、発表や話し合いをする。
・個人やグループの意見等を整理し、多面的・多角的に伝える。
・提示資料や作品をもとに、話し合いを深め、新たな学習につなげる。

■ 意見整理
複数のさまざまな意見や考えを共有して、話し合いをとおしてまとめる。
・互いの意見や資料等を把握して、話し合いを深める。
・さまざまな意見を共有しながら再構築して、課題解決につなげる。

■ 制作
ペアやグループで資料や作品を分担してまとめる。
・よりよい方法を検討しながら、同時に資料や作品をまとめる。
・周囲の取組や表現工夫をいかして制作する。

■ 遠隔
児童生徒や校外の人材等と交流して学習をする。
・異学年や他校の児童生徒と活動したり、地域人材や専門家等と学習する。
・やむを得ず登校できない児童生徒と一緒に学習する。

環境整備【抜粋】

- ・児童生徒1人1台端末（Chromebook）
- ・高速大容量校内通信ネットワーク
- ・電源キャビネット（充電保管庫）
- ・クラウドサービス（Google Workspace for Education）
- ・遠隔授業向けWebカメラ・マイク
- ・モバイルWi-Fiルーター
- ・デジタル学習ドリル（eライブラリアドバンス）
- ・教職員端末（2in1タブレット）
- ・学級増等に対応したアクセスポイント増設 等

活用推進【抜粋】

- ・NICT*プロジェクト
- ・ICT教育推進校
- ・デジタル学習ドリル推進校
- ・野田市教育研究会連携
- ・Noda GIGA net
- ・Googleパートナー自治体（研修・協力事業）
- ・野田市教育委員会主催研修会
- ・ICT活用状況調査
- ・運用ガイドライン・各種マニュアル
- ・NODA GIGA WEEK 等

浸透

Step 3 いかす

「教科の学びをつなぐ」
「社会課題等の解決や
一人一人の夢の実現にいかす」

令和5年度～

＜教職員 活用目標値＞
R3 週持ち時間の1/2程度以上
R4 週持ち時間の3/4程度以上

緊急利用
臨時休校時の
持帰（学習保障）

Step 2 つかう

「教科の学びを深める」
「教科の学びの本質に迫る」

令和3-4年度

＜教職員 活用目標値＞
R3 週持ち時間の1/4程度以上

Step 1 ふれる

「すぐにでも」「どの教科でも」
「誰でも」ふれられる1人1台端末

令和2-3年度

【平常時】
家庭利用

週1回程度からの持帰
(学習状況や発達段階に応じた活用)
長期休業時の持帰

【平常時】
校内利用

-文房具の1つとして-

学習活動の充実

主体的・対話的で深い学び
の視点からの授業改善

「活用事例のおすそわけ」
1000事例以上

◎ICTの活用が特別なことではなく、当たり前のこととなるよう、児童生徒自身が「文房具」として自由な発想で活用できることを目指していきます。

R5 NICTプロジェクト実施計画 概要

Google for Education
パートナー自治体

発信

ICT機器を活用した授業	R3.6	R3.12	R4.6	R4.12
週持ち時間のほとんどで活用している	16%	16%	20%	23%
週持ち時間の3/4程度で活用している	15%	20%	21%	24%
週持ち時間の1/2程度で活用している	35%	40%	34%	33%
あまり活用していない	30%	22%	22%	17%
未回答	4%	3%	3%	3%
児童生徒1人1台を活用した授業	R3.6	R3.12	R4.6	R4.12
週持ち時間のほとんどで活用している	4%	7%	20%	12%
週持ち時間の3/4程度で活用している	6%	12%	21%	17%
週持ち時間の1/2程度で活用している	24%	44%	34%	40%
あまり活用していない	64%	35%	22%	27%
未回答	3%	2%	3%	4%

Step 3に向けて活用の
「質の向上」を目指していく!

校長会
教頭会

管理職向け研修(6月30日)
・これからのICT教育
・グローバル企業に学ぶ組織運営

■みずき小、七光台小がコラボレーションしたプレゼンテーションコンクールの
ように、児童生徒の「表現力」(ICTを活用した)を向上させる取り組み
■ICT向上委員会(仮)のように、児童会・生徒会と連携した児童生徒の「自治力」
を高めるような取り組み

ICTを活用した児童生徒の表現力の向上
教科の特性にあわせた効果的なICTの使用

連携

NICT Noda Information and Communication Technology

デジタル学習ドリルの推進

- デジタル百科事典
- eライブラリ

Google事例校
みずき小 岩名中
新たに2校申請中

NICT教育推進校
R5指定校 清水台小
□公開授業 □情報発信

NICTナビゲーション
ブロックリーダー
×
アドバイザー

活用状況調査① アゲイン研修
コアPlus研修 教育者認定資格
管理職研修 取得支援研修①・②

NICT推進教育推進事業
実践校公開
活用状況調査②

東京理科大学准教授助言

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学び
の視点からの授業改善

目標:活用事例1000

5月
NICT
推進会議

7月 会議
活用状況調査
の分析

最先端のICT × これまでの授業実践
(野田教育の蓄積)

9月 会議
活用事例の
おすそわけ
状況確認

2月 会議
活用状況調査の分析
まとめ

Step 2 「つかう」 → Step 3 「いかす」 野田市教育委員会